

佐賀県研究成果情報（作成 2023年3月）

[情報名] 「さえみどり」は、三番茶を摘採することにより樹体の炭水化物含有率が高まる。

[要約] 「さえみどり」では、二番茶後に浅刈りを行わず、三番茶を摘採することにより秋整枝量は少なく抑えられ、光合成速度に差はなく、翌年一番茶の生育に寄与する樹体の炭水化物含有率が高まる。

[キーワード] チャ、さえみどり、整枝、三番茶摘採、樹体養分

[担当] 佐賀県茶業試験場 茶樹研究担当

[連絡先] TEL:0954-42-0066 メールアドレス: chagyoushiken@pref.saga.lg.jp

[分類] 技術者参考

[部会名] 茶業専門部会

[専門] 栽培

[背景・ねらい]

「さえみどり」は早生で高品質なため市場評価が高い優良品種であり、県内に導入が進んでいる。しかし、主要品種の「やぶきた」を中心として構築された二番茶後に浅刈りを行う管理方法では収量低下の問題が生じていることから、「さえみどり」に適した管理方法を明らかにする。

[成果の内容]

「さえみどり」は三番茶を摘採することにより、浅刈りに比べて、以下の特徴がある。

1. 秋芽長、秋梢葉数および枝径が小さくなり、秋整枝量が少なくなる。また秋整枝後の枝条密度は高くなり、連年の処理によりこれらの差は大きくなる（表1）。
2. 冬期の光合成速度は、整枝の方法の違いによる差はみられない（図1）。
3. 萌芽前および一番茶後の太枝中炭水化物含有率は高くなる（図2）。
4. 一番茶後の深刈り更新時のせん枝量は多く、層別の枝中炭水化物含有率も高いことから、樹体養分量の蓄積が大きい（図3、4）。

[成果の活用面・留意点]

1. 「さえみどり」の二番茶摘採後の整枝管理に活用できる。
2. 試験開始前の2018年に中切り更新を実施した（樹齢25年生）。
3. 浅刈りは、前年の浅刈り面と秋整枝面の間（2019年:58cm、2020年:60cm、2021年:64cm）で実施した。

[具体的なデータ]

表1 秋芽の生育

年	試験区	秋整枝量 (kg/10a)	秋芽長 (mm)	秋梢葉数 (枚)	枝径 (mm)	秋整枝後の枝条密度(本/m)		
						整枝枝数	未整枝枝数	総枝数
2019	三番茶摘採	139	11.1	8.1	1.7	517	167	683
	浅刈り(慣行)	350	21.4	11.4	1.9	625	58	683
2020	三番茶摘採	438	4.3	4.2	1.5	358	883	1242
	浅刈り(慣行)	997	24.8	11.5	2.1	508	181	690
2021	三番茶摘採	731	3.4	3.6	1.3	810	902	1713
	浅刈り(慣行)	1195	10.5	6.7	2.0	594	113	706

1) *は5%水準で有意差あり(Tukey-Kramer法).

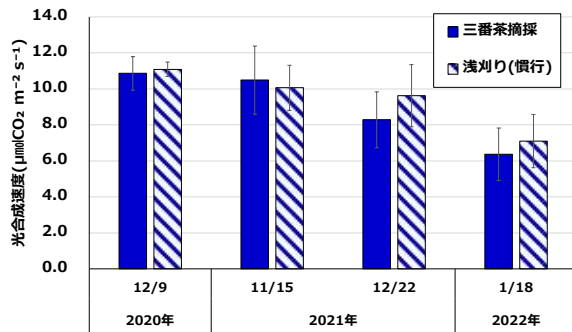


図1 冬期の光合成速度

- 有意差なし(Tukey-Kramer法).
- 測定条件は,光量は1200 µmol/m²/s, 葉温は実測値,CO₂は400ppmである.

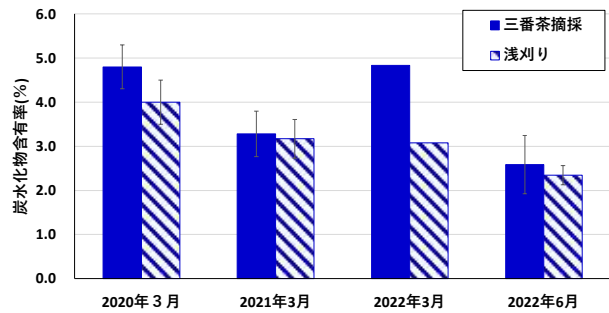


図2 太枝中炭水化物含有率 (2020年~2022年)

- 有意差なし(Tukey-Kramer法).
- 太枝(10mm)を採取し,乾燥および粉碎後,酵素法にて測定した.

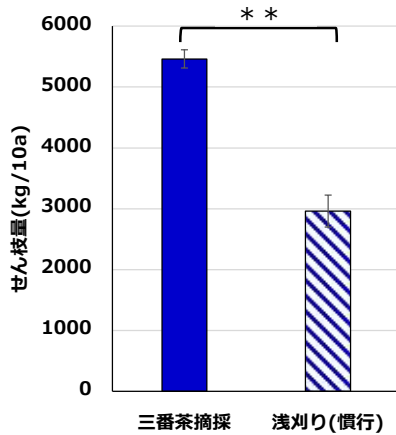


図3 深刈り時のせん枝量 (2022年)

- **は1%水準で有意差あり(Tukey-Kramer法).
- 深刈りは,2022年の一番茶後に樹高60cmで実施した.

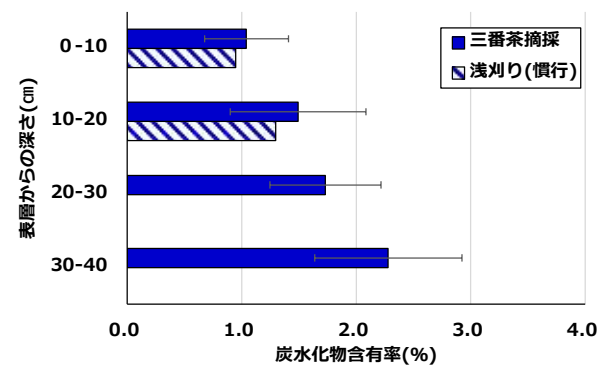


図4 一番茶後の層別枝中炭水化物含有率 (2022年)

- 全区有意差なし(Tukey-Kramer法).
- 2022年の一番茶後に深刈りし,乾燥および粉碎後,酵素法にて測定した.

研究課題名:「さえみどり」の減収要因の解明と高品質・多収栽培技術の確立

予算区分: 県単

研究期間: 2018-2022年度

研究担当者: 川副菜々実、中村典義、野村幸代、釘本和仁、平野剛史、東島敏彦、山口史子

発表論文: 川副ら(2022)茶業研究報告、134(別):44